

牧会 / 社会 / 神学

第5回日本伝道会議の論点⑦

このプロジェクトの目的は2つあります。①信徒の役割、働きを、聖書の秩序的に健全に位置づけること。②教会形成における信徒の働きを刷新と全教的連帯を促進させること。この目的に沿って、2回の講演と1回の分科会を予定しています。

■1回目の講演(9月22日)

講演者 前東京基督学校校長、現日本同盟基督教団日高キリスト教会、下川友也牧師。

テーマ 「教会における信徒の役割」

講演の内容 ①教会における信徒の役割。②社会人としての信徒の役割。③証し人としての信徒の役割と、信徒の役割を包括的に捕え、それぞれに、新しい角度からの鋭い考察がなされています。

教会における信徒の役割においては、初代教会の執事選出(使徒7:1-7)という出来事から、教職と信徒のあり方について論じています。社会人としての信徒の役割においては、労働する姿(6日間の労働に全力を尽くすこと)がいちばん似つかわしいけれど、

■2回目の講演(9月23日)

講演者 オアシス・チャーチ・ミニストリー代表、日本同盟基督教団新鎌ヶ谷聖書教会、玉井邦美牧師。

テーマ 「御霊の賜物と新約時代の信徒たち」

講演の内容 「教会には見物人は不要である。なぜなら、救われている者は、例外なく、キリストのからだを建て上げるために、それぞれに与えられている御霊の賜物を用いて、互いに仕え合うために召されている者たちである。教会形成におけるこの聖書の基本原則をもう一度再確認すると同時に、神に用いられた新約時代の信徒たちの実際例を通して、そのことを実践するものとなっていきます。」

信徒活動 — その役割と働き

聖書から位置づけ刷新と連帯促進

御霊の賜物に関して、それはいったい何なのか、それはいったい誰のために与えられているのか、それにはどんなものがあるのか、自分の賜物をどのようにして知るか、また、それをどのように評価すべきか、どのように活用すべきかなど、基本的な事柄について分かりやすく解説しています。神に用いられた新約時代の信徒たちについては、彼らの間に見られた

顕著な賜物をピックアップし、それらがどのように、宣教の拡大と教会形成に貢献していったかを示し、それを、今日の私たちの見習うべき模範、教会へのチャレンジとして提供しています。

■分科会(9月23日)

「敬虔」と「礼拝」は切り離せない 現代の教会に語るカルヴァンの礼拝



秋山 徹氏

7月6日、東京・三鷹市の東京神学大学チャペルを会場に行われた「カルヴァン生誕500年記念集会」。講演で秋山徹氏(日



石田学氏の司式でジュネーヴ礼拝を再現した(7月6日、東京神学大学チャペルで)

①「生き生きと輝いて生きるためには」(ヨハネ8:12、マタイ5:14) 一人ひとりのクリスチャンが、今置かれている場所で、遣わされている場所、もつと内住のクリストのいのちに輝き始めるなら、家庭が、教会が変わり、また、長いこと祈り求めてきた日本に、主の成してくる。

②「伝道の担い手として生きるためには」(ヨハネ16:1、エペソ2:9) クリスマスは誰一人、自分のためだけに生きていくのではなく、どこにいても、何をしても、その場において、主の成してくる。

「敬虔」と「礼拝」は切り離せない。現代の教会に語るカルヴァンの礼拝。日曜朝4時から早朝礼拝が始まり、説教を中心に洗式や結婚式が行われた。8時から朝の主たる礼拝があり、12時から子どもたちや教理の理解が不十分な人々のためにカテキズムを教える礼拝、午後3時から早朝同様の説教中心の礼拝と洗式や結婚式が行われた。週日にも毎朝の礼拝があり、特に水曜日の礼拝には多くの人が参加するよう呼び掛けられた。

秋山氏は強調した。「従来のカルヴァン研究が、神の栄光や戒規の強調などの教理が礼拝と切り離されたところで論じられ、礼拝と教理、礼拝と倫理とが切り離されバラバラに捉えられてきた傾向は正さなければならぬと感じている。人間を満足させるための礼拝、自己免許によって行う礼拝が横行し、倫理的に問題のある様々な行為を見聞きするわたしたちの教会の現状において、カルヴァンのピエタス(敬虔)を回復することは、緊急の課題であることは明らかです」



芳賀 力氏

本基督教団上尾合同教会(牧師)は、ジュネーヴ教会礼拝式再現の意図について、「実際にカルヴァンが行った礼拝順序に従い、カルヴァンと共に神の前に罪の告白をし、カルヴァンの説教と聖餐の勧めを聞き、カルヴァンと一緒に詩篇歌を歌う計画」と説明。「古典劇を再現するようにではなく、今、わたしたちが主なる神の前で行う礼拝としてみことばとサクラメントにあずかりたい。そのような礼拝を通して、カルヴァンが今に至るまで伝えてくる主なる神への信仰・敬虔の本質にふれ、そこから、私たちが受け継いできたもの、立つべきところを確かめたい」と、その意義を述べた。

芳賀力氏(東京神学大学教授)は、「プロテスタント伝道が開始された150年前は同時に近代日本の夜明けでもあった。人々の関心は一般に『和魂洋才』で西洋の文明技術だけを取り入れることに向かったが、その源流にプロテスタントの精神、特にカルヴィニズムがあったことを思い起こさねばならない」として、労働と経済活動、自然描写と自然科学、共同体思想と人権、世界への肯定的態度と否定的態度が終末論的緊張において統合される霊性など、カルヴィニズムの諸相を解説した。

ジュネーヴでの礼拝は「敬虔」と「礼拝」は切り離すことができない。カルヴァンにおいて「敬虔」と「礼拝」は切り離すことができない。カルヴァンにおいて「敬虔」と「礼拝」は切り離すことができない。

「敬虔」と「礼拝」は切り離せない。現代の教会に語るカルヴァンの礼拝。日曜朝4時から早朝礼拝が始まり、説教を中心に洗式や結婚式が行われた。8時から朝の主たる礼拝があり、12時から子どもたちや教理の理解が不十分な人々のためにカテキズムを教える礼拝、午後3時から早朝同様の説教中心の礼拝と洗式や結婚式が行われた。週日にも毎朝の礼拝があり、特に水曜日の礼拝には多くの人が参加するよう呼び掛けられた。

「敬虔」と「礼拝」は切り離せない。現代の教会に語るカルヴァンの礼拝。日曜朝4時から早朝礼拝が始まり、説教を中心に洗式や結婚式が行われた。8時から朝の主たる礼拝があり、12時から子どもたちや教理の理解が不十分な人々のためにカテキズムを教える礼拝、午後3時から早朝同様の説教中心の礼拝と洗式や結婚式が行われた。週日にも毎朝の礼拝があり、特に水曜日の礼拝には多くの人が参加するよう呼び掛けられた。

教会が教会であるために

精神障害と教会

55

「ためらい②」



向谷地生良 (むかいやちいくよし) 北海道医療大学看護福祉学部教授、浦河日赤病院「三足のワラジ」の理事として活躍中

今回は、自覚症状から統合失調症を心配されながら受診をためらい、その不安から信頼できるクリスチャンの精神科医を探したいという旨の相談をいただいています。私のつたない経験から言うと、もし相談された方が本当に統合失調症を発症していたとするならば、自分で統合失調症を疑い自発的に病院を受診される例は全くなしとは言いませんが、数少ないのが現状です。

私って統合失調症？

統合失調症と決めつけずに、予断をもたずには専門医を受診されることをお勧めします。もし、統合失調症だとしても、何を基準に精神科医を選ぶかは、それも一人ひとりみんな違うと考えた方がいいと思います。最近では、身近なクリニクを選ぶ方が多いようですが、統合失調症をもつ人たちの意見を聞いてみると、統合失調症をあまり否定的にとらえていないこと、薬だけに頼らずに、家族調整や地域での生活支援にも目が行き届いていること、本人の夢や可能性にも着目し、SST(生活技能訓練)という安心感からもたらされたもの、自らの人生が凝縮した「病氣」という状態を軽々しく扱ってほしくないという感覚は、良い意味での自尊心として今後大切にしたいものだと思います。

©みなさまのお悩み・ご質問・ご意見を募集しております。「精神障害と教会」にかかわる具体的な悩みや、ご質問を送ってください。宛先は〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-10CCビル5階 クリスチャン新聞編集部まで。HPでも募集中です。http://jpnews.org/seishin/ (掲載の場合は薄謝進呈)